

東京大学 高齡社会総合研究機構

設立構想

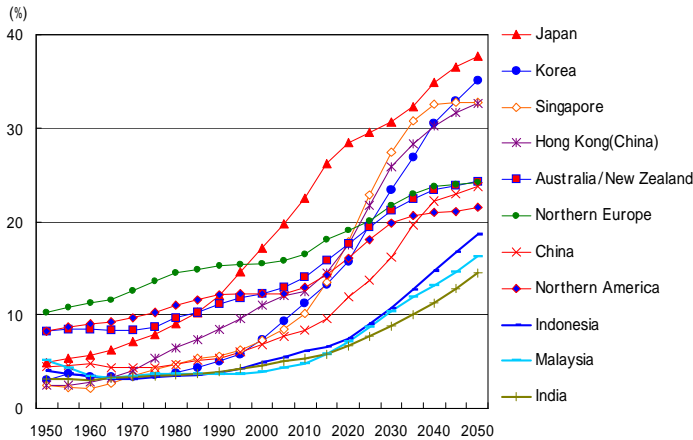
世界の人口高齡化をリードする日本発の、高齡社会課題に
学際的に取り組む研究・教育拠点を東京大学に

2009年3月

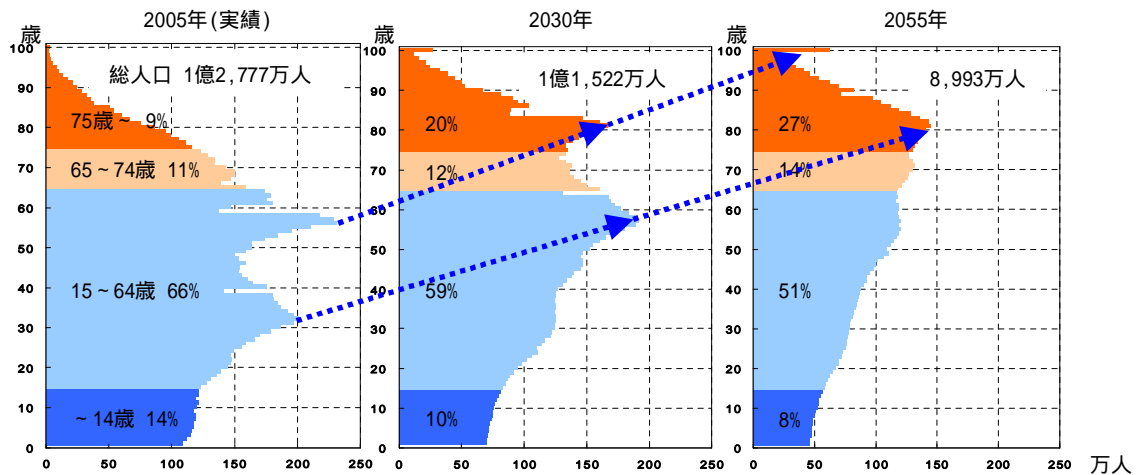
背景

課題と可能性の先進国、超高齢国日本へ

今世紀、世界の高齢化は更に加速する。特にアジア圏の高齢化が著しい。そのトップランナーがわが国である。



これまで高齢化の先頭を走ってきた欧米を越える勢いでアジア諸国が高齢化する。わが国はそのトップを走っており、2030年には人口の3人に1人が65歳以上となる。中でも75歳以上の急増が予測されている。このような超高齢社会が目前に迫る今、我々は超高齢社会に対応した持続可能な社会の実現のため、多様な課題と可能性に直面している。

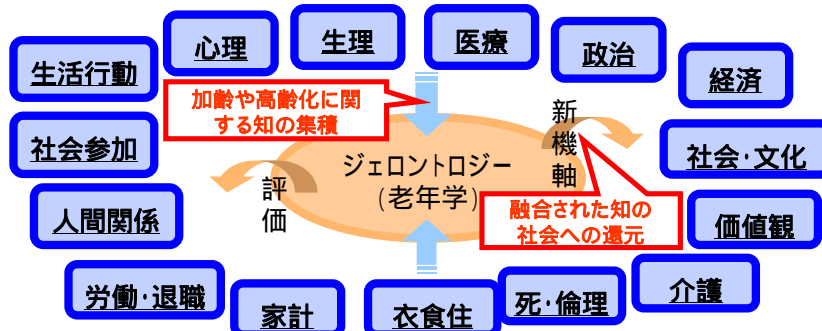


長寿社会の多岐に渡る複雑な問題に対応した、社会システム創出の必要性

65歳以上、75歳以上が人口のマジョリティになる時代に、現在の社会の価値観や社会システムは立ち行かない。多様な課題に対して知を集結し、多角的に課題解決に取り組む必要がある。

長寿と社会の高齢化が面する課題は、幅広い領域で相互に関連する複雑なものである。

その解決には、これまで領域別に蓄積されてきた知を集結し学際的に課題解決に取り組む研究体制の構築が不可欠である。



さらには、鳥瞰的視野で課題解決に取り組める人材の育成、融合した知を新たな社会システムの創生、政策提言、産業界との協働など、複数のソースから社会に発信する産学官の連携体制の構築が求められている。

設立趣旨

超高齢社会の直面する課題解決に、学際的に取り組む共同研究事業の推進

複雑に絡み合う課題を多角的に分析し、解決策を社会に発信するため、学内外に点在する高齢者・高齢社会研究の研究者、データ、知見を集約し学際的共同研究を推進する

領域横断的な視点、産学官、そして国内外と連携し課題解決を目指す人材の育成

学際教育プログラムの運営により、高齢化と高齢社会に関する広い知識を備えた人材を産学官各領域へ広く輩出するとともに、若手研究者を積極的に研究プロジェクトの中核に位置づけることで、国内外他領域の関係者と連携し研究をすすめる能力を身につけた人材を育成する

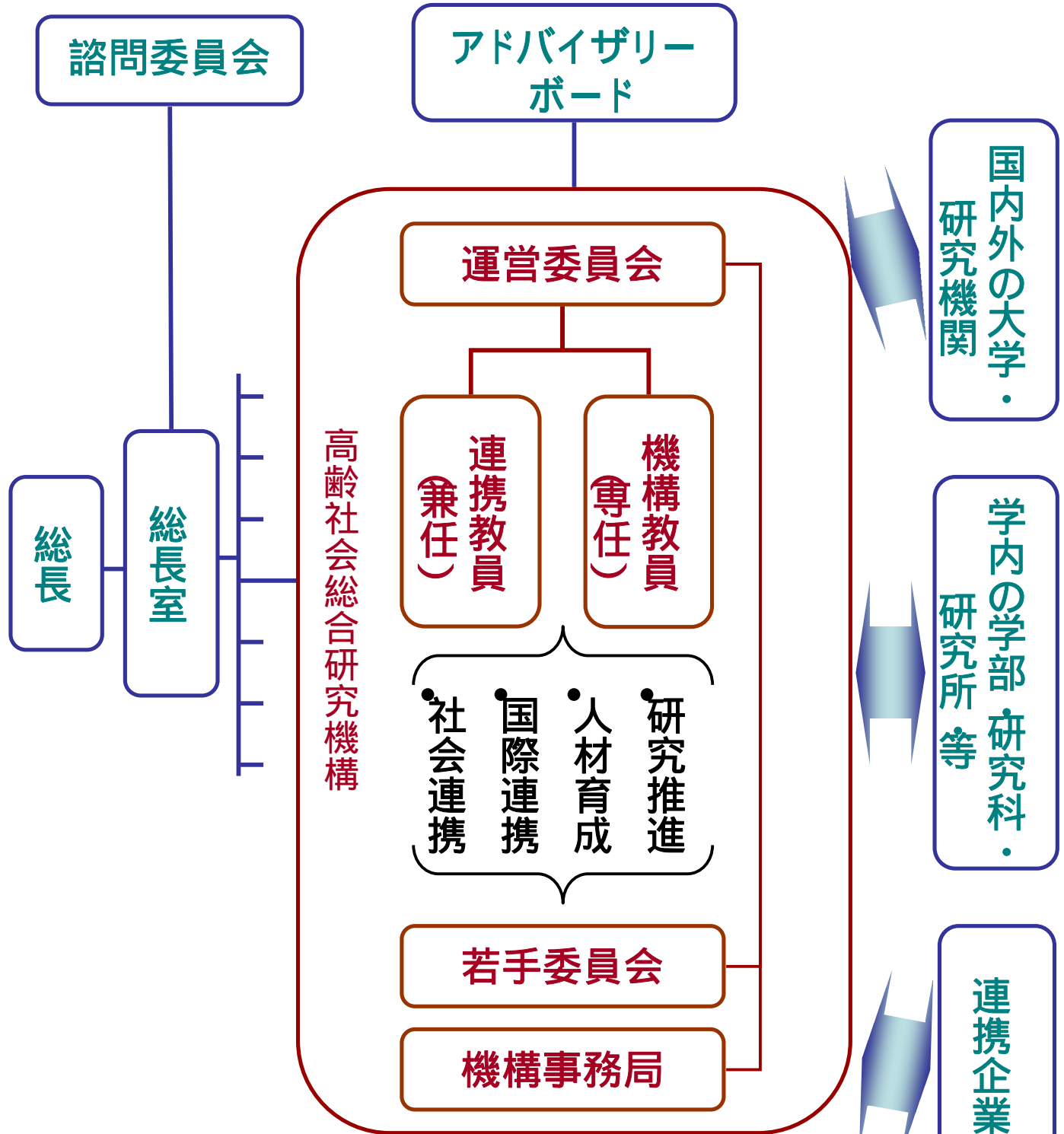
アジアの高齢研究教育拠点の創設

これまで高齢研究を牽引してきた欧米の研究者、機関、およびアジアに点在する高齢研究の研究者、機関との人材交流、共同研究、教育資源の共有等を進め、ジェロントロジー(老年学)研究教育のアジアの拠点となる

知と産官民との連携体制の確立

研究教育活動と社会連携活動をとおして行政・産業・地域市民らと連携し、課題の掘り起こしと知見の社会還元をたえまなく行う連携体制を確立する

推進体制



総長室直轄で高齢社会総合研究機構を設置

学内外、国内外の関連機関、さらには地域、企業らとのネットワークのなかで、運営委員会(専任、兼任の教員から構成される)が主体となり、若手委員会(若手研究者のネットワーク)と共同で4領域の活動を推進する

機構推進メンバー (4月1日付け)

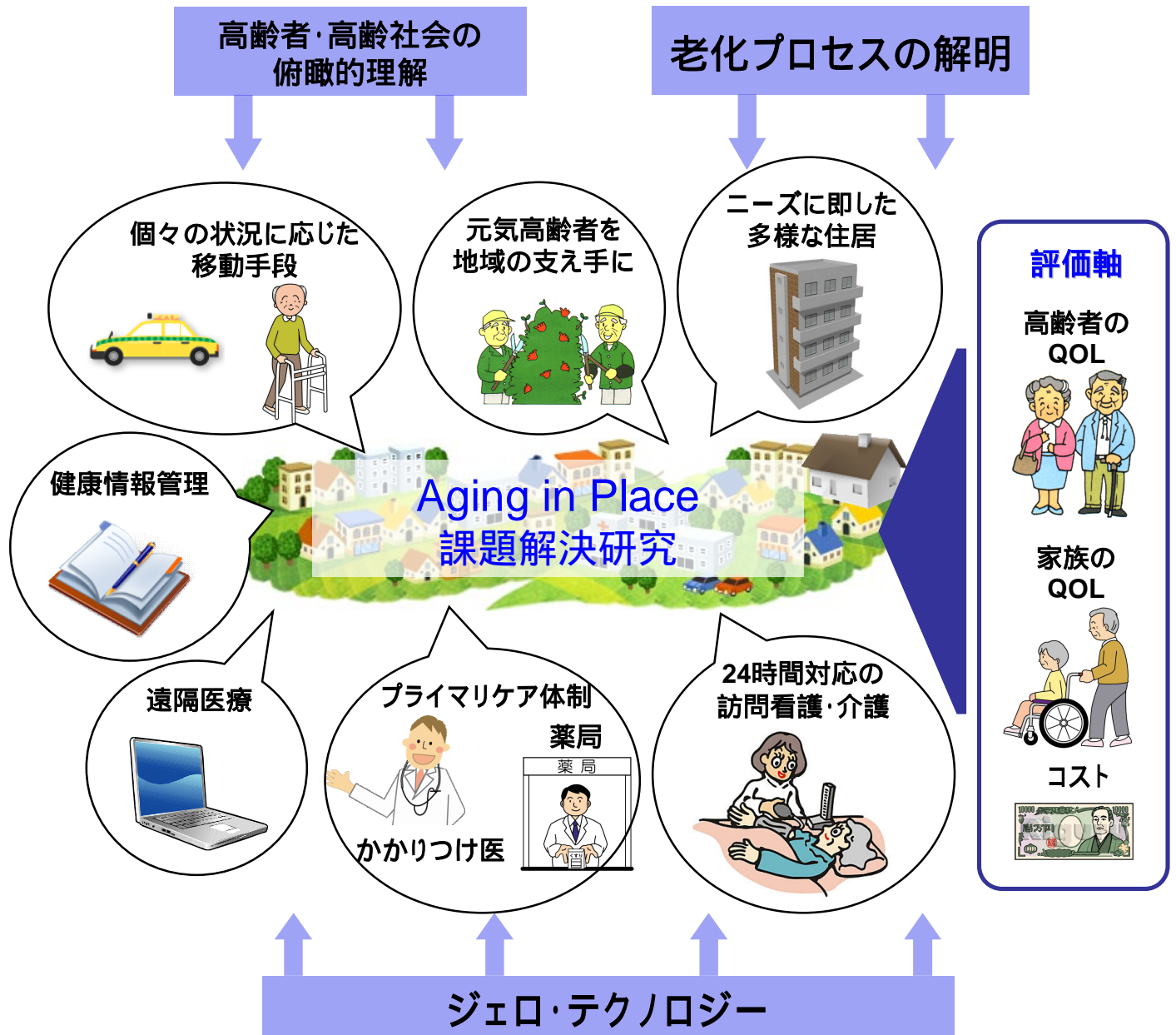
学内12研究科等、2研究所に渡る広く強力な学内ネットワーク

大内 尉義 (運営委員長)	医学系研究科(生殖・発達・加齢医学専攻) 教授
鎌田 実 (機構長)	高齢社会総合研究機構 教授
辻 哲夫	高齢社会総合研究機構 教授
秋山 弘子	高齢社会総合研究機構 特任教授
甲斐 一郎	医学系研究科(公共健康医学専攻) 教授
村嶋 幸代	医学系研究科(健康科学・看護学専攻) 教授
秋下 雅弘	医学系研究科(生殖・発達・加齢医学専攻) 准教授
樋口 範雄	法学政治学研究科(総合法政専攻) 教授
森田 朗	公共政策学連携研究部(公共政策学専攻) 教授
岩本 康志	経済学研究科(現代経済専攻) 教授
佐久間 一郎	工学系研究科(精密機械工学専攻) 教授
大方 潤一郎	工学系研究科(都市工学専攻) 教授
大月 敏雄	工学系研究科(建築学専攻) 准教授
廣瀬 通孝	情報理工学系研究科(知能機械情報学専攻) 教授
飛原 英治	新領域創成化学研究科(人間環境学専攻) 教授
吉川 泰弘	農学生命科学研究科(獣医学専攻) 教授
阿部 啓子	農学生命科学研究科(応用生命化学専攻) 教授
荒井 良雄	総合文化研究科(広域科学専攻) 教授
武川 正吾	人文社会系研究科(社会文化研究専攻) 教授
清水 哲郎	人文社会系研究科(上廣死生学講座) 教授
白波瀬 佐和子	人文社会系研究科(社会文化研究専攻) 准教授
牧野 篤	教育学研究科(社会教育専攻) 教授
稲葉 寿	数理科学研究科(数理科学専攻) 准教授
伊福部 達	先端科学技術研究センター(工学系研究科先端学際工学) 教授
佐藤 博樹	社会科学研究所(附属日本社会研究情報センター) 教授

研究推進

研究の基本理念

“Aging in Place” - 住み慣れた所で自分らしく老いることが出来る社会の実現をめざす

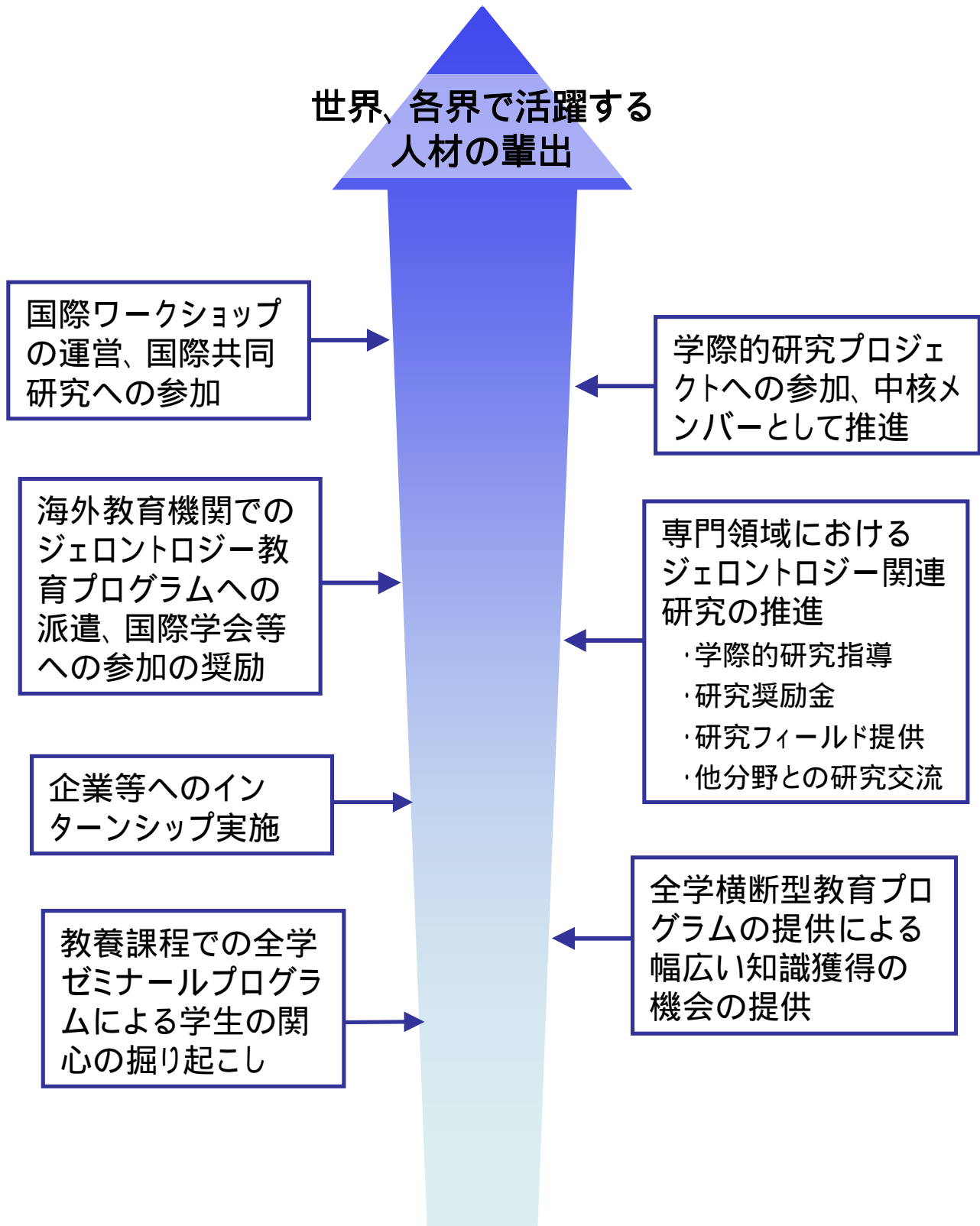


個人の老化と社会の高齢化の理解を深める基礎研究、高齢者の生活を支援する技術開発研究を基盤とし、地域・社会から抽出した課題解決型の研究プロジェクトを推進

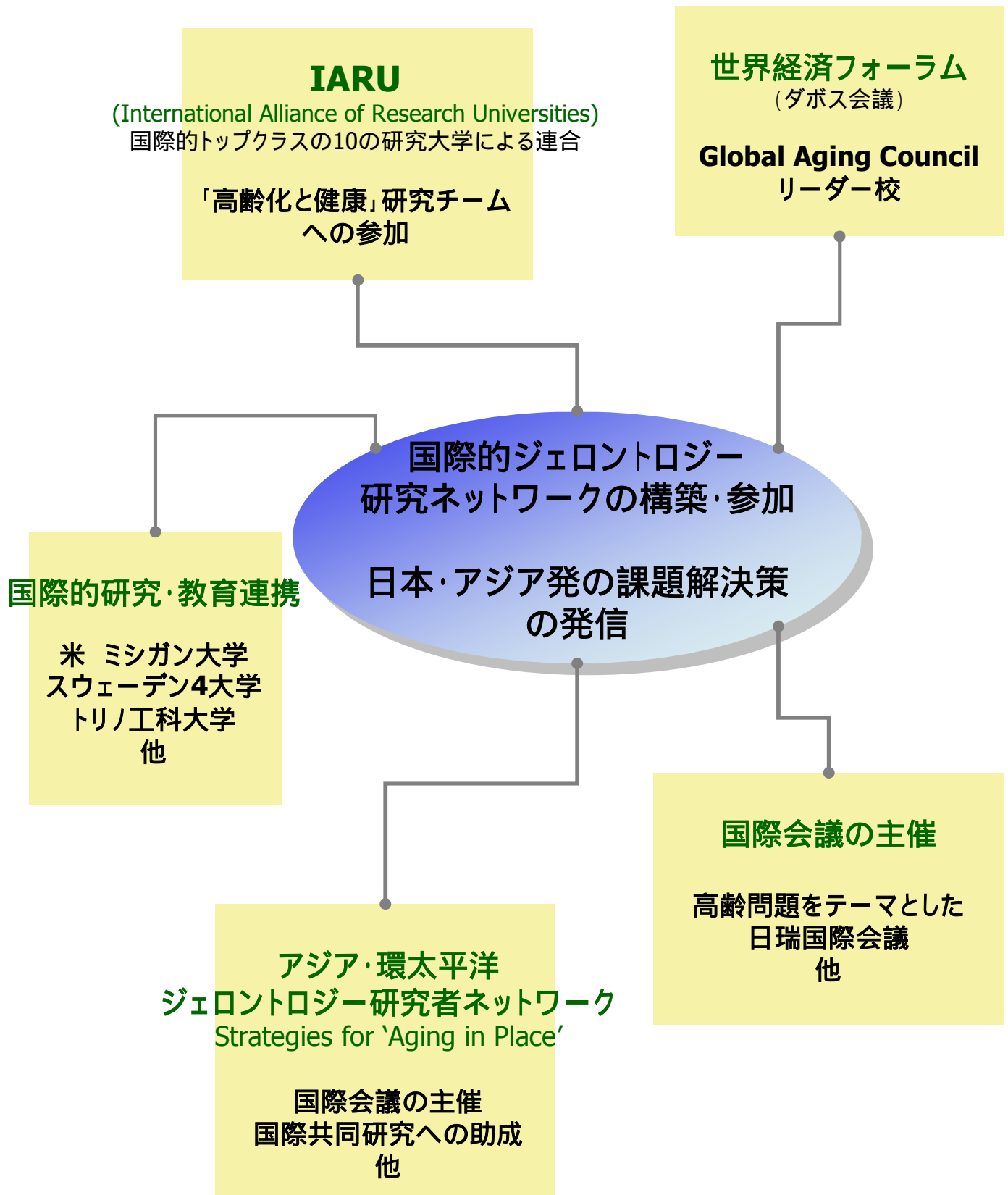
課題解決研究プロジェクトでは、**モデル地域における社会実験型研究**により、知見を社会に還元する体制を推進する(現在、福井県及び千葉県柏市で計画・実行中)

人材育成

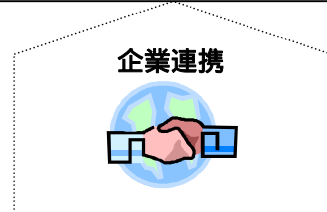
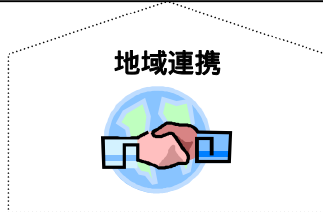
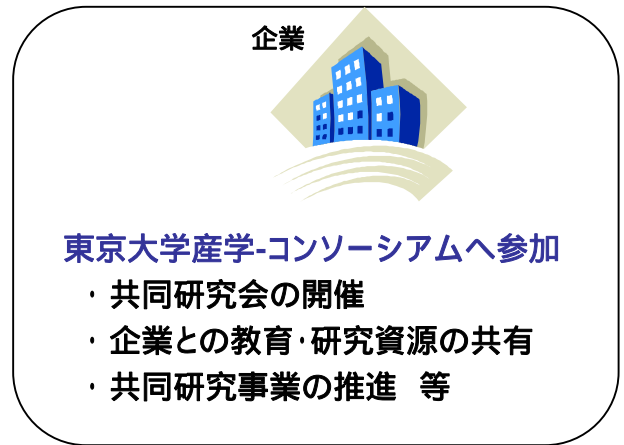
次世代のジェロントロジー研究者のネットワーク拡張



国際連携



社会連携



研究活動における連携
研究成果の発信
人材の輩出
による地域社会、産業界等との連携

